

本研究会の当面の進め方について

令和7年11月14日
事務局

背景

- 人口減少や少子高齢化等を背景として、地域の公共交通や物流の安定的かつ効率的な提供等が課題になっている中、AI技術の急速な高度化等により、国内外で自動運転の開発等が進展しており、その収集データの分析や利活用も含め、道路交通社会における課題解決手段やモビリティ分野の新たなサービス・価値創造が期待される。
- 我が国では、自動運転レベル4の実現に向け、政府を挙げて取組を進めているところ、その実現のためには自動運転を支える通信環境の確保や通信インフラの整備が急務。



主な検討事項

- **自動運転社会の本格的到来が見込まれる2030年代（5年後、10年後）も見据え、【自動運転×通信】の広い視点から、自動運転、デジタル・AI、データの流通・利活用、地域DX等に関する最新動向や今後の見通し等をレビューし、中長期視点も含め、現状・課題・論点等について整理**
(例) 関係省庁や民間事業者における計画・取組等を踏まえ、以下について整理
 - ① **自動運転導入の対象エリア**：高速道路／地域（一般道）、その中での具体的な箇所（道路・自治体 等）
 - ②（①ごとに必要となる）**通信手段**：ITS用自営通信／5G・4G携帯等公衆通信、これらに係る電波周波数帯 等
 - ③（②を活用した）**民間サービス・ソリューション**：コネクテッドカー、車向け情報配信等、遠隔監視システム、Saas/Maas 等
- **国内/個別地域において、自動運転が導入・運行される状況下で、中長期も含めて整備・提供されていることが必要となるような、通信インフラ・サービスに係る整備・提供のあるべき姿（主体、場所、スケジュール等）、通信インフラ等に関する国の政策や民間事業者等の取組の在り方等について整理**
- **これまでの政府戦略・省庁連携に基づく既存取組についても、進捗や見通し等をモニタリングしつつ推進方策等を整理**

- 前頁の検討事項を踏まえ、本研究会における検討や整理等を円滑かつ実効的に進める観点から、当面の会合では、関連する最新の動向や取組、今後の見通し等について、**本研究会の構成員や主要な関係者からのプレゼンテーション**を実施。

当面の予定（構成員等からのプレゼンテーション）

■ 第1回研究会（令和7年9月3日）

- ・トヨタ自動車（山本構成員）
- ・杉浦構成員

■ 第2回研究会（令和7年10月2日）

- ・ティアフォー（加藤構成員）
- ・BOLDLY（池田構成員）
- ・先進モビリティ（瀬川構成員）

■ 第3回研究会（令和7年10月24日）

- ・日産自動車（高松構成員）
- ・T2（川崎構成員）
- ・いすゞ自動車（三澤構成員）
- ・日野自動車（遠藤構成員）

■ 第4回研究会（令和7年11月14日）＜今回＞

- ・NTT
- ・NTTドコモ
- ・KDDI
- ・MONET

■ 第5回研究会（令和7年12月2日）

- ・国土交通省（物流・自動車局）
- ・警察庁
- ・みちのりホールディングス
- ・北海道上士幌町

■ 第6回研究会（令和7年12月17日）

- ・経済産業省（製造産業局）
- ・NEXCO東日本
- ・ITS Japan
- ・スマートモビリティインフラ技術研究組合（SMICIP）

■ 第7回研究会（令和7年12月25日）

- ・農林水産省
- ・ITS情報通信システム推進会議（ITS Forum）
- ・マクニカ
- ・三菱総合研究所